

2024年度 特別支援教育

I 大会テーマ

「主体的に学び、将来にわたり豊かに生きる力を育む
特別支援教育」

～障害のある子もない子も共に学びあう学校をめざして～

**「めあてに向かう多様な学び方を尊重し、
子供が主体的に学ぶ授業」**

～通常の学級の子供たちが抱える困り感に寄り添い、学びの実感のある授業づくり～

焼津市立 黒石小学校

松下 和枝

II 研究内容

1 研究テーマ

めあてに向かう多様な学び方を尊重し、子供が主体的に学ぶ授業
～通常の学級の子供たちが抱える困り感に寄り添い、学びの実感のある授業づくり～

2 研究テーマ設定の理由

黒石小学校の子供たちは素直であり、明確な目標があると積極的に取り組める子供が多い。しかし、不得意な課題や場面に対し、最後まで粘り強く取り組むことが難しい子供たちが一定数いる。1年生の子供たちも、初めての学校生活に子供らしく前向きに取り組んできた。しかし、学級の中には授業に集中して取り組めず課題の途中で他のことに気が向いたり、理解することに時間がかかり他の子供と同じペースでは学習の目標に到達することが難しかったりする子供がいるなど、学習の取組にばらつきがみられる。個々の特性により様々な困難を抱え、授業に前向きに取り組めない子供がいる現状がある。

そこで、子供たちの多様性を尊重し、主体的に学ぶ個別最適な授業づくりをめざし、そのための手立てを、特別支援教育の視点をもって講じることが大切であると考えた。子供たちが前向きに学びたくなる環境を作って授業をすることや、特性に合った適切な支援が学習への意欲につながり、子供自身が授業に主体的に取り組めるだろうと考え、この研究テーマを設定した。

3 研究仮説

特別支援教育における学習指導要領改訂のポイントには、「各教科等の学習上の困難に応じた指導内容や指導方法の工夫がある」という文言があり、「個別最適な学び」はそれを実現するための学びの形だとされている。また静岡大学教育学部の山元氏は、子供たちの困り感に寄り添って具体的な手立てを講じ、全ての児童生徒に「学びの実感」のある授業を実践することで、確かな学力を身につけることができると解説した。通常の学級で困り感を抱えた1年生の子供たちが、主体的に学び、子供が本来もつ「学びたい」「できるようになりたい」という思いを生かし学習をするためには、子供が主役となる場の設定が必要であると考えた。「個別最適な学び」の視点をもって、以下の2点を仮説として設定した。

仮説1 自らの興味関心に応じて対象物を選べるようにすることで、子供が主体的に学習に取り組むだろう。(→学習の個性化)

仮説2 目標に向かうまでの手段や方法を選べるようにすることで、どの子供も理解が深まり、学びの実感を得るだろう。(→指導の個別化)

4 研究実践

以下に、本学年での2単元の実践を記す。

(1) 生活科 **資料1**

単元	いきものとなかよし
目標	生き物を探し捕まえた経験などを生かして、友達と相談しながら生き物にとってよりよい飼育環境を作る活動を通して、生き物の特徴にあったすみかや世話の仕方を考える。

学習の個性化 (3/8)	世話をする生き物を自分で選ぶ。
-----------------	-----------------

普段の授業では、集中することが難しい A 児だが、中庭にいるバッタを捕まえたいと休み時間も昆虫を探しに出かけバッタを捕まえることができた。「自分が捕まえた生き物だから。」と、周りの子供の様子を見たり、友達に聞いたりしながらバッタの生態にあった、すみかづくりにじっくりと取り組んだ。そして毎日餌となる新鮮な草を取りに行き与えるなど、最後まで世話を続けることができた。



6 種類(カナヘビ・コオロギ・ダンゴムシ・キリギリス・カエル・蝶)の生き物を各自選び、それぞれ学級内で育てることとした。そのため、同じ虫でも体を丸めることができる、ジャンプすることができるなど体の動きや、特徴に違いがあることに気付くことができた。自分が世話をしている生き物を長生きさせたいという思いから、図書館で本を借りて、よりよい飼育の仕方を調べようとする子供の姿もあった。

指導の個別化 (4・5/8)	振り返りワークシートは、記述欄の多いものと少ないものを用意し、選ぶ。
-------------------	------------------------------------

ひらがなを書くことにも時間がかかり、ひらがな表を見ながら書いている子供や、書くことに苦手意識をもっている子供も少なくない。そのため、記述欄の多いワークシートと少ないワークシートを用意した。また絵だけで振り返りを書くことも認めるなど、子供たちの選択の幅を広げ柔軟に対応した。書くことに苦手意識のある子供たちも、今日の世話についての振り返りを書くことに抵抗なく取り組み、書くことを楽しむことができた。A 児は今までは振り返りを書くことに抵抗があり、書こうとしないこともあった。しかし、自分で選び自分で大切に育てた生き物だからか、その様子について記述欄の多いワークシートを選び、振り返りを書くことができた。



↑ 記述欄の少ないもの

↑ 記述欄の多いもの

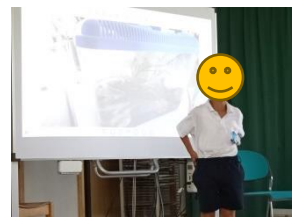
指導の個別化 (4・5/8)	豊富なすみかづくりの材料(草、石、土など)を用意し、選ぶ。
-------------------	-------------------------------

材料が豊富にあることで隠れ家を作ったり、水飲み場を作ったりするなど、世話をしている生き物にとって良いすみかとはどんなものかを考え、よりよい材料を選ぶ手立てとなった。全体指示を聞き逃すことが多く、活動にマイペースな B 児は、材料が身近で豊富にあることからすみかの中に、水飲み場や隠れ家、遊び場や寝る場所を作りたいと考えた。生き物の大きさや動きに合わせて様々な材料を選び置いてみるなど、時間いっぱいまで試行錯誤する姿が見られた。



指導の個別化 (6・7/8)	世話をしてきた生き物の特徴や世話の仕方を紹介する方法を選ぶ。 (動作化、写真、絵、粘土など)
-------------------	---

心を込めて世話をしてきた生き物だったため、それぞれの子供たちが得意な表現方法で、その特徴や世話の仕方などを説明することができた。文章を書くことに苦手意識のあるB児はクロームブックで撮った写真を使いながら世話の仕方を説明したり、生き物の動きを動作化して表現したりするなど、子供がそれぞれの得意な伝える方法を選択し楽しく発表する姿が見られた。



(2) 国語科 資料2

単元	じどう車ずかんをつくろう
目標	紹介したい自動車の「つくり」の情報を集め、「しごと」にあった「つくり」を選ぶことを通して、伝えたいことを明確にする。

学習の個性化 (2/8)	「自動車図鑑」に載せる自動車を、自分で選ぶ。
-----------------	------------------------

お気に入りの自動車を自分で選んだということで、自動車に対する関心がより高まり、つくりをたくさん書き出していた。特にC児はキッチンカーを選んだため、「アイスクリームを売る車」「クレープを売る車」など複数の本を比べて読み共通して説明できるつくりを見つけるなど、2冊以上の図鑑から同じ車についての情報を見つけようとする姿が見られた。

学習の個性化 (3/8)	学習の形態を「1人で」「友達と」「先生と」から選ぶ。
-----------------	----------------------------

本から情報を読み取り、ワークシートを作成するときには、学習の形態を子供たち自身が「1人で」「友達と」「先生と」などから選び取り組むことで、子供同士が相手を選び必要な対話をしていた。読解力も高く学習にいつも前向きに取り組むC児はこれまでの学習の経験をいかし、「1人で」学習することを選び、図鑑をよく読み集中して学習を進めることができた。「友達と」を選んだ子供たちは、同じ自動車を選んだ子供同士で学習に取り組んだり、違う自動車を選んだ子供同士で取り組んだり様々だったが、疑問点があったときは仲間内で話し合い解決しようとする姿が見られた。学習に不安のある子供たちにとっては「先生と」学習する選択肢があることで、安心して学習に取り組み最後までまとめることができた。



指導の個別化 (3/8)	教師が用意した難易度の異なる複数の本から、子供が自分に合ったものを選ぶ。
-----------------	--------------------------------------

教科書や、ワークシートに沿った形で記述された本を提示することで、読むことや書くことに苦手意識のある子供たちも取り組むことができた。つくりを見つけられずに困っている子が、友達にすすめの本を紹介してもらい取り組む姿もあった。

以下は生活科、国語科の実践を踏まえ、仮説をもとにした実践を記す。

(3) 算数科

単元	くらべてみよう
目標	いろいろなものの長さを比べる活動を通して、直接比較、間接比較、任意単位を使って長さ比べをすることができる。

学習の個性化	自分が測りたいものを自分で選ぶ。
--------	------------------

直接比較、間接比較、任意単位での比較が十分にできるように、6か所12個の測る対象を準備し選べるようにした。縛ったままの短縄や粘土で作ったとぐろをまいたへびなど、実際に直接比較や間接比較をしないとどちらが長いかわからないものを提示をすることで子供たちは主体的に活動に取り組んだ。普段の授業では、集中が続かず他のことに気が向いてしまう子供も、ペアの子供と声を掛け合い時間いっぱいまで学習に取り組んだ。

指導の個別化	・測る方法(直接、間接、任意単位での比較)、道具を選ぶ。
--------	------------------------------

測る方法を自由に選べるようにした。紙テープで間接比較する子供が多かったが、測る対象によっては、直接比較する方がわかりやすい、早いなどの発言もあり、よりよい測定の方法を選ぶ子供の姿も見られた。



(4) 音楽科

単元	がっきとなかよくなろう
目標	打楽器の音色や音の強さ、高さ、響きの長さを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る活動を通して、音の出し方を工夫し、それによる音の違いに気付くことができる。

学習の個性化	鳴らし方を試したい楽器を選ぶ。
--------	-----------------

楽器を選べるのがきっかけとなり、普段は活動に取り組めないこともある児童も、自分の好きな楽器を選び、活動に取り組めた。

指導の個別化	ヒントカードの中から楽器の鳴らし方を自分で選ぶ。
--------	--------------------------

音の鳴らし方の方法を、「強く・弱く」「大きく・小さく」「打つ・振る・はじく」などを、大きな文字とイラストで子供に示した。授業に前向きに参加することや、全体の指示を理解することが難しい子供も、それぞれの方法を組み合わせることで、新しい鳴らし方を見つけようとしていた。



↑ ヒントカード

(5) 図画工作科

単元	できたらいいな こんなこと
目標	経験したことや想像したことをもとに「やってみたいこと」を考える活動を通して、どのように表すかを考えている。

学習の個性化	自分が描きたい場面を想像して描く。
--------	-------------------

自分の一番の「やってみたい」ことを描くことで子供たちのやる気が引き出され主体的に学ぶ手立てとなった。

指導の個別化	画用紙に直接描くか、他の紙に下描きをして構想を練ってから描くかを選ぶ。
--------	-------------------------------------

自由に書くことに苦手意識のある子供にとって、下描きをすることで安心して取り組むことができた。

指導の個別化	用意されたクレヨン、クーピー、絵の具から、自分の描画方法を選んで描く。
--------	-------------------------------------

クレヨンだけでなく、絵の具やクーピーを用意したことで、先に他の画材に取り組んだ子供の様子を見て、違うやり方を試そうとしたり、自分から図鑑やクロームブックで画像検索をしたいという声もあったり、自分の作品を積極的によくしようという姿があった。



(6) 体育科

単元	たのしくうんどうあそびをしよう～とびばこ～
目標	自分が挑戦したい跳び箱を選び、跳び越し方を考えたり友達と伝え合ったりすることを通して、体の動かし方を工夫しながら、自分にできる跳び越し方を増やしていくことができる。

学習の個性化	トン(踏切)パン(手をつく)ポン(着地)の三つから毎時間目標を選ぶ。
--------	------------------------------------

トン(踏切)パン(手をつく)ポン(着地)の三つの目標であることや、場づくりがしてあることで、視覚的にも子供たちが取り組むことがわかりやすく、主体的に学ぶ手立てとなった。

指導の個別化	目標や難易度に合わせて練習場所、練習方法を選ぶ。
--------	--------------------------

練習場所が目的別になっていることから参考にすべき友達の動きを見て、自分の動きを変えようとする姿もあった。また運動が苦手な子供も、自分で選び運動することができ、無理なく練習に取り組み、十分な運動量を確保することができた。



5 研究成果

(1) 成果

- 自己選択・自己決定の場を設けることは、子供が主体的に取り組む手立てとなっていた。子供自身の興味関心に基づいた「学習の個性化」は、子供自身のやる気を引き出した。それにより、子供たちの粘り強く最後まで取り組む姿が見られた。また「指導の個別化」は、自分の苦手なやり方ではなく違うやり方なら自分はできるという、学びに向かう気持ちや自己肯定感を高めた。
- 「指導の個別化」は、一部の困り感を抱えている子だけの手立てでなく、すべての子供に対する支援にもつながった。
- 個別最適な学びを意識して授業を作ることは、得意な学び方を見つける糸口となり、より主体的な学びにつながる。

(2) 課題

- ▲子供が主体的に学ぶためには単元構想がとても重要である。一斉授業と個別最適な学びとを発達段階に応じてどのように組み合わせていくか検討していきたい。
- ▲学級の実態や、それぞれの子供のもつ特性によって、いつ・どんな自己決定する場を設定したらよいかは異なる。また、効果的な支援が何かも異なる。今回実践した手立ても、全ての学級に当てはまるとは限らない。学年内で連携を図り実践を積み重ね、子供にとって必要感のある自己決定の場のバリエーションを増やすことが、個別最適な学びを定着させることになると感じた。

6 参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」
 奈須正裕「個別最適な学びの足場を組む。」教育開発研究所.2022

めあてに向かう多様な学び方を尊重し、子供が主体的に学ぶ授業

～通常の学級の子供たちが抱える困り感に寄り添い、学びの実感のある授業づくり～

資料編

- 1 日時 令和5年9月19日(火) 第5校時
- 2 場所 1F 多目的室
- 3 単元名 1ねん2くみ いきものはくぶつかん 「いきものとなかよし」
- 4 単元計画 p.43 (7)

資 質 ・ 能 力	知	飼っている動物や、育てている植物が生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。
	思	飼っている動物や、育てている植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。
	学	生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。

1 次	2 次	3 次
生き物に会いに行こう。	生き物ともっと仲良くなろう。	好きな生き物のことを伝えよう。
<p>①生き物のすみかの特徴を予想しながら、生き物探しをしている。 【思】</p> <p>②生き物のすみかについて調べ、まとめる活動を通して生き物の特徴、育つ場所に気付いている。 【知】</p>	<p>③ 自分が育てたい生き物を選び、進んで働きかけたり、親しみをもったりして、繰り返し関わろうとしている。 【主】</p> <p>④⑤ 生き物を探し、捕まえた経験や調べた情報を活かして、友達と相談しながら生き物にとってよりよい飼育環境をつくる活動を通して、生き物の特徴に合ったすみか作りや世話の仕方を考えることができる。 (本時) 【思】</p>	<p>⑥⑦ これまで育てたり調べたりしたことを振り返る活動を通して、自分が紹介したい生き物の特徴について伝えるための方法を選んだり、伝える準備したりしている。 【思】</p> <p>⑧ 発表会を通して、生き物への親しみをもち、これからも大切に育てようとする気持ちを養う。 【主】</p>

生活科の「見方・考え方」とは、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする」と指導要領に書かれている。本単元では、身近な生き物を探したり観察したりする活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけたり、生き物への親しみをもち、大切にしようとする姿が深い学びにつながると考える。

本単元における他者との対話をする場面は大きく分けて2つある。1つは2次にあたる同じ生き物に興味を持ち、協力してその生き物を育てていく友達との対話である。ここでは「育てる生き物にとってよりよい環境になるように相談する」目的での対話を取り入れる。自らの経験や興味関心に合わせて、育てたい生き物を選ぶことは、より主体的に活動に参加することにつながる。同じ興味関心をもった他者と、自らの生き物を育てる環境をよりよくしていくための対話には、必要感がうまれるだろう。もう1つの他者との対話をする場面は、単元の最後に行われる3次にあたる自らが興味をもって育ててきた生き物についてのことを、クラスの友達に伝える場面である。「ここで育ててきた生き物のことをみんなに知ってもらおう」目的の対話を取り入れる。2次での対話と異なり、自分とは興味関心が異なる他者へ伝えたり、聞いたりする対話となる。ここで対話に主体性を生み出すには、2次での活動の充実が重要となる。自らが興味をもった生き物とのたくさんの関わりや知識があれば、そのことを伝えたいという思いはより強くなる。また、3次での対話は興味関心の異なる他者への対話となるため、伝える方法や言葉の選び方も大切になる。そのため、伝える方法についても、子どもたちが伝えたいことに合わせて選べるようにする。

また、今回は通常級における特別支援の観点として、「子どもの多様性を尊重し、主体的に学ぶ個別最適化された授業」を目指し以下の2点を手立てとして設定する。

①子どもが主体的に学習に取り組めるよう、自らの興味関心に応じて対象物を選べるようにする。

②子どもの多様性や一人ひとりの特性を尊重し、目標に向かうまでの手段や方法を選べるようにする。

個別の支援として、集中力がなく切り替えができないA児については①の手立てが支援となる。自らがお世話をする対象物を選択することで、興味関心をもって集中して課題に取り組むことができるだろう。切り替えが苦手なことについては、座席の配置を前にしたり、個別に声掛けをしたりするなどして支援していく。

次に全体指示の理解が苦手なB児には①の手立てが同じく学習への意欲の支援となる。また活動の材料を目に見えるように用意して実際にその場ですぐに取り組める環境をつくることで活動の支援とする。

言葉にして書くことが苦手なC児は、②を手立てとする。振り返りで使うワークシートを文字が多いものと、少ないものを用意し、C児が絵を使って気付いたことを表現できるようにする。

対話等

通常級における特別支援

本時について

(1) 本時の目標

生き物を探し、捕まえた経験や調べた情報を活かして、友達と相談しながら生き物にとってよりよい飼育環境をつくる活動を通して、生き物の特徴に合ったすみか作りや世話の仕方を考えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 本時の展開 (4/8)

学 習 活 動	○留意点・支援◆評価						
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生き物がもっと元気に過ごせるようなお世話の仕方を考えよう。</p> <p>○生き物たちがもっと元気に過ごすにはどうしたらいいかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫かごの中に、捕まえたところにあったものと同じものを入れてあげる。 ・生き物が隠れたり、遊べたりするところが必要だと思う。 ・餌をいれてあげるのがいいと思う。 ・生き物によってお世話が違うね。 	<p>○児童のお世話への意欲を引き出すために、すでに虫かごの中を工夫している児童を紹介し、他の児童の虫かごと比較したり、その意図を説明したりしてもらう。</p> <p>○その生き物にあったお世話や環境づくりが大切であることを押さえる。</p>						
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○○がもっと元気に過ごせるためにはどうしたらいいのだろうか？</p>	<p>対 自らが育てる生き物のよりよい飼育環境を考えた時、友達と比べたりする目的でグループでの対話を取り入れる。</p>						
<p>【グループ】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><u>カナヘビ</u> わたしはカナヘビが住んでいたところと同じになるように、枯れ葉や草をたくさんいれて隠れ家を作りたいな。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><u>コオロギ</u> 僕のコオロギがたくさん動き回れるように、枝や石を置いてアスレチックをつくったよ。</p> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <p><u>ダンゴムシ</u> 図鑑で調べたら、ダンゴムシは湿った土が好きだと書いてあったよ。地面を少し濡らしてあげよう。</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <p><u>キリギリス</u> キリギリスの餌を知らなかったけど、友達に教えてもらったから猫じゃらしの草がいいってわかったよ。</p> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <p><u>カエル</u> 僕のカエルと友達のカエルは別の種類だから、すみかも違うと思う。詳しく調べたい。</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <p><u>蝶</u> 蝶は明るいところよりも暗いところがいいみたい。布をかけてあげたいから、用意しよう。</p> </td> </tr> </table>	<p><u>カナヘビ</u> わたしはカナヘビが住んでいたところと同じになるように、枯れ葉や草をたくさんいれて隠れ家を作りたいな。</p>	<p><u>コオロギ</u> 僕のコオロギがたくさん動き回れるように、枝や石を置いてアスレチックをつくったよ。</p>	<p><u>ダンゴムシ</u> 図鑑で調べたら、ダンゴムシは湿った土が好きだと書いてあったよ。地面を少し濡らしてあげよう。</p>	<p><u>キリギリス</u> キリギリスの餌を知らなかったけど、友達に教えてもらったから猫じゃらしの草がいいってわかったよ。</p>	<p><u>カエル</u> 僕のカエルと友達のカエルは別の種類だから、すみかも違うと思う。詳しく調べたい。</p>	<p><u>蝶</u> 蝶は明るいところよりも暗いところがいいみたい。布をかけてあげたいから、用意しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを確認したり、説明したりするために、生き物についての本などで調べた資料を自由に確認できるようにする。 ・B児C児が活動にすぐに取り組めるように友達の虫かごと写真など具体的な比較対象を示し、自分がやりたいことをはっきりとさせる。 ・試したいことをその場で試せるように、土・石・葉・枝などを準備しておく。 ・材料から発想を得られるように、教室のどこにどんなものがあるかわかるように張り紙などで示しておく。 ・意図や根拠をもってお世話ができるように、教師が「どうしてそうするのか？」と質問したり、子どもたちどうして交流を促したりする。
<p><u>カナヘビ</u> わたしはカナヘビが住んでいたところと同じになるように、枯れ葉や草をたくさんいれて隠れ家を作りたいな。</p>	<p><u>コオロギ</u> 僕のコオロギがたくさん動き回れるように、枝や石を置いてアスレチックをつくったよ。</p>						
<p><u>ダンゴムシ</u> 図鑑で調べたら、ダンゴムシは湿った土が好きだと書いてあったよ。地面を少し濡らしてあげよう。</p>	<p><u>キリギリス</u> キリギリスの餌を知らなかったけど、友達に教えてもらったから猫じゃらしの草がいいってわかったよ。</p>						
<p><u>カエル</u> 僕のカエルと友達のカエルは別の種類だから、すみかも違うと思う。詳しく調べたい。</p>	<p><u>蝶</u> 蝶は明るいところよりも暗いところがいいみたい。布をかけてあげたいから、用意しよう。</p>						
<p>○自分の○○のためにどんなお世話をしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はバツタがもともと住んでいたところに似せて草を入れて虫かごの中をつくりました。 ・コオロギがたくさん遊んだり、隠れたりできるように枝や石をいれたよ。 ・僕のカエルは水のところにいたから、ペットボトルのキャップで水をためておいてあげるよ。 <p>○今日のお世話を振り返りカードに書こう。(振り返り)</p>	<p>○自己の変容に気付けるように、授業前の虫かごの写真をとっておき、必要に応じて、確認できるようにしたり、教師が提示したりする。</p> <p>・言葉にして書くことが苦手なC児が気付いたことを表現できるように、ワークシートは2種類用意し、文字の少ないものを選択できるようにする。</p> <p>◆ 自分が育てる生き物の特徴に合ったすみかを作ったり、世話の仕方を考えたりしている。 【思考・判断・表現】</p>						

6.座席表

黒板			
石・砂など	【ダンゴムシA】	【ダンゴムシB】	【ダンゴムシC】
	【こおろぎ】	【カエル】	【が・ちょう】
	【バッタ キリギリス】	【カナヘビ】	【その他】
紙・割りばし・ペットボトルなど			土・枯れ葉など

- 2 場所 1年 教室
- 3 単元名 じどう車ずかんをつくろう
- 4 単元計画 A(2) p.50～

資質・能力	知	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア)		
	思	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構想を考えることができる。(B(1)イ)		
	学	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
	1次	2次	3次	
	自動車図鑑の作り方を確かめよう。	「自動車紹介カード」を書こう。	「自動車紹介カード」を読み合おう。	
	① ・「自動車図鑑」を作ることを知る。 ・「図鑑」に書くことを話し合う。 ・「自動車図鑑」の作り方を確かめ、学習の見通しをもつ。 【主】	② 本などを使って紹介したい自動車の「しごと」について調べ、文にまとめる。 【思】 ③ ・本などを使って紹介したい自動車の「つくり」について調べ、分かったことを書く。 ・説明する「しごと」に合った「つくり」を選ぶ。(本時) 【思】 【知】 ⑤ ・「自動車紹介カード」を書く。 ・間違いがないか確認し、絵を描きカードを完成させる。 【思】	⑥ ・「自動車紹介カード」を読み合い、感想を伝え合う。 ・学習を振り返り、自分の文章の良いところを見つけて書く。 【思】	
対話等	<p>国語科における「見方・考え方」について、指導要領には、「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童(生徒)が学習の中で、対象と 言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり 問い直したりして、言葉への自覚を高めること」と書かれている。</p> <p>前単元「じどう車くらべ」では、「バスやじょうよう車」「トラック」「クレーン車」3種類の自動車について読み、それぞれの自動車の「しごと」とその特徴となる「つくり」を表す重要な語や文を考えて選び出す学習をした。また、「しごと」と「つくり」を表に書き抜いて整理することで、2つの関係性を理解できるようにした。その学習を元に本単元では、説明したい「しごと」と「つくり」としてふさわしい情報を選び、自分の思いや考えが明確になる文を書けるようにしたい。そこで、2次でカードに書く「つくり」を選ぶ時に、「しごと」に合った「つくり」になっているか確認する目的でグループ対話を取り入れる。友達の選んだ「つくり」が「しごと」と合っているかを考えることを通して、言葉と言葉との関係についてより理解が深まるだろう。また、自分が選んだ自動車の説明を、伝える相手に分かってもらえるように書くことができたという達成感や満足感にもつながると考える。</p>			
通常級における特別支援	<p>今回は通常級における特別支援の観点として「子どもの多様性を尊重し、主体的に学ぶ個別最適化された授業」を目指し、以下の2点を手立てとして設定する。</p> <p>① 子どもが主体的に学習に取り組めるよう、自らの興味関心に応じて対象物を選べるようにする。→個性化</p> <p>② 子どもの多様性や一人一人の特性を尊重し、目標に向かうまでの手段や方法を選べるようにする。→個別化</p> <p>そこで、本単元ではまず①について、「自動車図鑑」に載せる自動車を、自由に選べるようにする。前単元「じどう車くらべ」で、知っている自動車の種類を出し合った時に、いろいろな自動車を積極的に発表していた子供たちなので、自分が興味ある自動車について紹介できるとなれば、とても意欲的に取り組もうとすると考えられる。</p> <p>次に②については、1つ目に、自動車の「しごと」と「つくり」の関係がなかなか理解できないA児やB児、C児に、「しごと」と「つくり」に分けて解説が載っている「はたらくじどう車しごととつくり」の本を勧めたい。他の本に比べて、情報を取り出しやすいと思う。また、2つ目として、D児、E児をはじめとして、一人で学習を進めることに不安を感じる子もいるので、「同じ自動車を選んだ友達と相談しながら進める」ことや、「教師と一緒に進める」こと、「一人で考えたい」など、自分に合った場を自分で選び、学べる環境を整えたい。</p>			

5 本時について

(1) 本時の目標

紹介したい自動車の「つくり」について情報を集め、「しごと」に合った「つくり」を選ぶことを通して、伝えたいことを明確にすることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開 (3/5)

学 習 活 動	対 ○留意点・支援◆評価			
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自動車の「つくり」について調べよう。</p> <p>【全体→グループまたは個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーの「つくり」が、たくさん書けそう。 ・「しごと」に合った「つくり」にしないとね。 ・「つくり」だったら、なんでもいいわけじゃなかったね。 ・でも、まだよくわからないよ。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>カーキャリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階建ての丈夫な荷台 ・トレーラーを上げたり下げたりするボタン ・たくさんのタイヤ ・大きなタイヤ ・大きな窓 </td> <td style="width: 33%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>キッチンカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓を開けるとカウンターになる。 ・キッチン ・大きな看板。 ・水道 ・運転席 </td> <td style="width: 33%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>救急車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立って手当てができるように天井が高い ・ベットがある。 ・サイレン。 ・治療する道具 ・窓がない。 </td> </tr> </table> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「しごと」に合った「つくり」を選ぶにはどうしたらいいかな。</p> <p>【グループまたは個人→ペア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハンドルがある」や「タイヤがついている」っていうのは、どの自動車にも言えることだよ。 ・他の自動車と違うところを見付けるといいね。 ・「しごと」と「つくり」が「その（しごとをする）ために」で、つながるか、たしかめるといいよ。 ・カーキャリアの場合は、「車をまとめてはこぶしごとをする」ために、「2階建ての丈夫な荷台」があるんだよね。「大きな窓」は運転する時には必要だけど、「車をまとめて運ぶしごと」とは、関係ないな。 ・キッチンカーは、「車の中で食べ物を作って売る」しごとに合っているのは、「荷台にキッチンがある」ことだけど、「好きな場所でお店を開く」しごとに合う「つくり」は、「運転席があって、どこへでもいける」ことだね。 <p>○「しごと」をするための「つくり」になっているか、友達と確認しよう。【班】</p> <p>○「しごと」に合わせた「つくり」を選ぶことができましたか</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>きゅうきゅう車は、けがをした人を病院まで運ぶ仕事をしています。そのために、運転席の後ろが広がっていて、うごかせるベットがあります。</p> </div>	<p>カーキャリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階建ての丈夫な荷台 ・トレーラーを上げたり下げたりするボタン ・たくさんのタイヤ ・大きなタイヤ ・大きな窓 	<p>キッチンカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓を開けるとカウンターになる。 ・キッチン ・大きな看板。 ・水道 ・運転席 	<p>救急車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立って手当てができるように天井が高い ・ベットがある。 ・サイレン。 ・治療する道具 ・窓がない。 	<p>対 ○留意点・支援◆評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の「しごと」と「つくり」の関係が理解できない、A児やB児、C児には、前時と同じように「はたらくじどう車しごととつくり」の本を勧め、「しごと」と「つくり」を区別して抜き出せるようにする。 ・「しごと」に合った「つくり」とはどのようなことを再確認させるために、前単元で、「はしご車」について、みんなで考えた時の資料を提示する。 ・調べながら「しごと」に合った「つくり」を取捨選択できる子もいるが、多くの子にとっては難しい。まずは、見つけた「つくり」をどんどん書き出していけばよいことにする。 ・学びを進める時に、自信をもって取り組めよう、「同じ自動車を選んだ友達と相談しながら進める」、「教師と一緒に進める」、「一人で考える」など、自分に合った場を自分で選べるようにする。 <p>○ 「しごと」に合った「つくり」を選ぶのは、子供にとって難しい。「そのために」で2つがつながるかや、『その「つくり」は、何のためにそうなっているか』『その「しごと」をするのに、役立つ「つくり」なのか』など、子供が考える時に視点となりそのような発問を用意しておく。</p> <p>対 「しごと」に合った「つくり」になっているか、確認する目的の対話を取り入れる。</p> <p>◆紹介したい自動車の「つくり」について情報を集め、「しごと」に合わせた「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。【観点】</p>
<p>カーキャリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階建ての丈夫な荷台 ・トレーラーを上げたり下げたりするボタン ・たくさんのタイヤ ・大きなタイヤ ・大きな窓 	<p>キッチンカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓を開けるとカウンターになる。 ・キッチン ・大きな看板。 ・水道 ・運転席 	<p>救急車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立って手当てができるように天井が高い ・ベットがある。 ・サイレン。 ・治療する道具 ・窓がない。 		